

# 英語教育改善プラン推進事業 第1回ワーキング会議



令和5年5月29日(月)  
県総合教育センター情報研修室  
義務教育課・高校教育課

## Today's Menu

事務局より

○令和5年度英語教育改善プラン推進事業について

○第1回研究指定校アンケート結果について

大学教授による講義（指導助言）

※終了後、校種ごと分科会

# Today's Menu

事務局より

○令和5年度英語教育改善プラン推進事業について

○第1回研究指定校アンケート結果について

大学教授による講義（指導助言）

※終了後、校種ごと分科会

## 背景・課題

小・中・高等学校と一貫した英語によるコミュニケーション能力の育成を図るため、英語教育を抜本的に強化した学習指導要領を令和2年度から順次実施中。小学校での英語教育の大幅な充実や中学校・高等学校における生徒の発信力（話す・書く力）の強化といった、今回の改革を着実に実施し、英語教育の改善・充実のための持続可能なPDCAサイクルを確立するため、英語教育実施状況調査等で明らかになった課題の解決に向けた取組や、指導力強化のための取組等の推進が必要。

## 事業内容

### ◆ 指導体制の強化

#### 免許法認定講習の開設等 専門人材育成・確保事業 26百万円

<委託先> 国立大学法人、学校法人、都道府県・指定都市教育委員会、  
専門機関等  
<箇所数> 14箇所程度

##### <小学校に関する取組例>

小学校教師等が中学校教諭免許状（英語）  
を取得するための免許法認定講習（H28～）

大学と教育委員会が連携し、  
小学校英語専科教員として指導ができる  
人材育成講習



##### <小・中・高等学校に関する取組例>

特別免許状等を利用した人材活用  
（ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な人材等）  
のための講習

外国語指導助手（ALT）等を対象とした  
資質・能力向上のための講習等

英語以外の外国語における専門性の高い  
外国語指導者の養成・確保のための  
講習や教材開発等



### 連携施策

#### 英語専科教員の加配措置（3,000人）

小学校英語教育の早期化・教科化に伴う専科指導に必要な教師の充実  
※上記に加え、小学校高学年の教科担任制推進のための加配措置により更に取組を充実

### ◆ 指導力向上及び条件整備

#### 英語教育改善プラン推進事業 91百万円

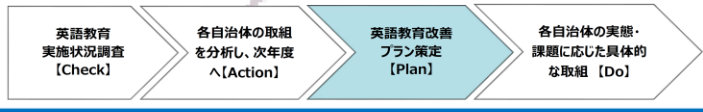
✓ 都道府県教育委員会等が策定している「英語教育改善プラン」の取組の中で、英語教育実施状況調査等で明らかになっている課題への対応や、ICT機器を活用した指導方法の開発等を支援する。  
また、取組内容を公表し、成果物の活用を促進することにより、全国的な英語教育の改善・充実を図る。（R3～）

✓ 各種調査等の結果も含めた成果分析を行い、EBPMによるPDCAサイクルを促進するとともに、国として効果的な取組等を普及する。

<委託先> 都道府県・指定都市教育委員会（成果検証は研究機関等）  
<箇所数・単価> 9箇所程度

##### 英語教育実施状況調査等で明らかになっている課題の例

- 発信力（話すこと・書くこと）強化
- 言語活動の充実
- パフォーマンス評価等の効果的な実施
- 中学・高校における英語での授業
- ICT機器の効果的な活用



#### 新たな外国語教育に対応した条件整備・情報発信事業 142百万円

小学校外国語活動教材「Let's Try!」の配布。（R1～）  
小・中・高等学校の授業事例等の映像資料を作成。



### ◆ 指導力等強化のための実証研究

#### 先導的なオンライン研修実証 研究事業 42百万円

専門的な自己研鑽の機会の地域間格差の解消やコロナ禍においても教師が学び続ける機会の確保に向けて、オンライン研修プログラムの実証研究を行う。また、実証研究を踏まえて、各都道府県教育委員会等が良質なオンライン研修を提供できるよう支援する。

##### ◆ 中・高等学校教員プログラム（R1～）

国内にいながら、英語による海外の大学等の授業受講を可能とし、英語で専門的な授業を受ける体験を、実際の授業とリンクさせ指導力を向上。

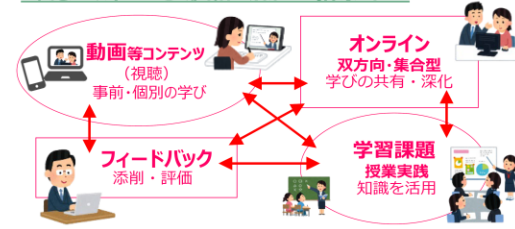
##### ◆ 小学校教員プログラム（R2～）

指導に必要な英語を学びながら、実際に授業で活用することを通して、英語力と指導力を向上。

※参加自治体・教師等については委託先決定後公募。



### #働き方改革 #地域間格差解消 #指導力向上



# 山梨県英語教育改善プラン推進事業

【背景】グローバル化の更なる進展・ポストコロナを見据えて

- 自国や他国の言語や文化を理解し、日本人としての美德やよさを生かし、グローバルな視野で効果的に対外発信できる資質・能力の育成が不可欠。
- 国際共通語としての英語によるコミュニケーション能力においては、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」のバランスのとれた育成が重要。
- 海外に飛び出して文化や価値観の多様性に触れ、世界中の人々と協働する力を育成するために、教育課程外・学校外の活動の充実も必要。

参考：英語教育・日本人の対外発信力の改善に向けて(アクションプラン)

【課題】令和3年度英語教育実施状況調査結果(山梨県結果)より

- CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の中3生の割合 39.3%  
CEFR A1レベル(英検準2級)相当以上の高3生の割合 48.9%
- CEFR B2レベル(英検準1級)以上の教師の割合 中32.0% 高82.2%
- 授業の半分以上、言語活動を行っている割合 中68.8% 高50.0%
- 授業の半分以上を英語で行っている教師の割合 中70.8% 高46.8%
- パフォーマンステスト(話す・書く)両方実施の割合 中90.8% 高49.1%
- デジタル教科書・教材を含むICT機器の効果的な活用

## 【事業目的】

小・中・高等学校を通じて、客観的データを基に授業改善・学習改善を行い、ICTを活用しながら、4技能をバランスよく育成し、グローバル社会に生きる児童生徒に求められる発信力の向上を確実に図る。

## 【事業内容】

### 調査結果分析

- ◆ R4英語教育実施状況調査
- ◆ 全国学力・学習状況調査
- ◆ 県学力把握調査
- ◆ 指定校GTEC①

実施・分析

ワーキンググループ  
(WG)

P

### 授業改善・学習改善

- ◆ 指定校授業提案

デジタル教科書・ICTの効果的な活用  
Yamanashi English Channel

- ◆ 全県対象研修会

小:英語専科/中・高:英語科教員  
指導・評価(テストング)改善等

研究指定校

6校(小2・中2・高2)

D

全小・中・高等学校

### 授業改善・学習改善

全県・全国への波及

- ◆ 成果報告会
- ※ 県内外対象

成果物の共有  
全校授業改善・学習改善報告



A

C

### 調査結果分析

指導・助言

- ◆ 指定校GTEC②
- 実施・分析

- ◆ R5英語教育実施状況調査



山梨県教育委員会

国際交流・異文化体験活動

## 県下・全国に波及する効果

- ☑ 客観的データ(CEFR-J)に基づいた4技能における的確な指導改善・評価改善。
- ☑ 言語活動を中心に据えた、英語で行うことを基本とした授業の実施。
- ☑ パフォーマンステストやペーパーテストにおけるテストングの質の向上。
- ☑ デジタル教科書・教材を含むICT機器を活用した効果的な実践を共有。

児童生徒の  
4技能育成  
発信力向上



山梨県英語教育  
改善プラン推進事業

研究指定校

甲府市立 相川小学校・北東中学校

甲州市立 塩山北小学校・塩山中学校

山梨県立 甲府西高等学校・都留高等学校

R5

学校種間連携（小・中・高連携）

英語教育改善  
プラン策定  
【Plan】

各自治体の実態・  
課題に応じた具体  
的な取組【Do】

英語教育実施  
状況調査 等  
【Check】

各自治体の取組を  
分析し、次年度へ  
【Action】

R6

成果発表会（全国へ）

英語教育改善  
プラン策定  
【Plan】

各自治体の実態・  
課題に応じた具体  
的な取組【Do】

英語教育実施  
状況調査 等  
【Check】

各自治体の取組を  
分析し、次年度へ  
【Action】

児童生徒の英語力向上（意欲含む）



# 令和4年度英語教育実施状況調査結果（速報値）

## ○ 求められる英語力（CEFR A1）を有する生徒の割合

【中学校】

山梨県  
全体の状況

		R4	R3
(ア)	第3学年に所属している生徒数	6,442	6,577
(イ)	(ア)のうち、外部検定試験を受験したことがある生徒数	1,959 (30.4%) 全国 (44.9%)	2065 (31.4%) 全国 (45.5%)
(ウ)	(ア)のうち、CEFR A1レベル相当以上を取得している生徒数	1,281 (19.9%) 全国 (27.3%)	1,379 (21.0%) 全国 (27.2%)
(エ)	(ア)のうち、CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数【(ウ)以外】	1,364 (21.2%) 全国 (19.8%)	1,206 (18.3%) 全国 (19.8%)
(オ)	(ア)のうち、CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒数 【(ウ)+(エ)】	2,645	2,585
	求められる英語力を有する生徒の割合 【(オ)／(ア)】	<u>41.1%</u> 全国 (49.2%)	39.3% 全国 (47.0%)

# 令和4年度英語教育実施状況調査結果（速報値）

## ○ 求められる英語力（CEFR A2）を有する生徒の割合

### 【高等学校】

		R4	R3
(ア)	第3学年に所属している生徒数	5,021	5,361
(イ)	(ア)のうち、外部検定試験を受験したことがある生徒数	2,427(48.3%) 全国(51.6%)	2,821(52.6%) 全国(53.0%)
(ウ)	(ア)のうち、CEFR A2レベル相当以上を取得している生徒数	1,730(34.5%) 全国(30.2%)	1,977(36.9%) 全国(31.2%)
(エ)	(ア)のうち、CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数【(ウ)以外】	704(14.0%) 全国(18.4%)	647(12.1%) 全国(14.9%)
(オ)	(ア)のうち、CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒数【(ウ)+(エ)】	2,434	2,624
	求められる英語力（CEFR A2）を有する生徒の割合【(オ)／(ア)】	<u>48.5%</u> 全国(48.7%)	48.9% 全国(46.1%)



# 令和4年度英語教育実施状況調査結果(速報値)

## ○ 求められる英語力(CEFR B1)を有する生徒の割合



【高等学校】

		R4	R3
(ア)	第3学年に所属している生徒数	5,021	5,361
(イ)	(ア)のうち、外部検定試験を受験したことがある生徒数	2,427(48.3%) 全国(51.6%)	2,821(52.6%)
(ウ)	(ア)のうち、CEFR B1レベル相当以上を取得している生徒数	757(15.1%) 全国(12.4%)	—
(エ)	(ア)のうち、CEFR B1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数【(ウ)以外】	242(4.8%) 全国(8.8%)	—
(オ)	(ア)のうち、CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒数【(ウ)+(エ)】	999	—
	求められる英語力(CEFR B1)を有する生徒の割合【(オ)/(ア)】	<u>19.9%</u> 全国(21.2%)	—

# 令和4年度英語教育実施状況調査結果（速報値）

## ア 英語による言語活動に重点を置いた授業づくりにおいて学校種間の共有が不足

	言語活動時間			英語使用状況	
	児童生徒が半分以上の時間、言語活動を行っている（50%程度以上）			教師が発話の半分以上を英語で行っている（50%程度以上）	
	R4		R3	R4	R3
小5	91.6%	91.5%	93.4%	※県独自調査 ○外国語活動担当教員（研究指定校） R3 5月:39% R5 1月:57% ○外国語科担当教員（研究指定校） R3 5月:50% R5 1月:68% ○英語専科教員 R4 9月:95%	
小6	<u>92.1%</u>		94.6%		
中1	<u>77.2%</u>	73.8%	72.1%	<u>68.4%</u>	70.2%
中2	70.9%		68.6%	78.5%	74.5%
中3	<u>73.4%</u>	59.8%	65.7%	<u>79.7%</u>	約-25ポイント
高等学校	<u>59.8%</u>		50.0%	<u>55.6%</u>	

約-15ポイント

約-15ポイント

最大  
約-25  
ポイント

# 令和4年度英語教育実施状況調査結果（速報値）

## イ 全ての校種において指導と評価の一体化が不十分

	CAN-DOリスト		パフォーマンステスト	
	R4	R3	R4	R3
小学校	設定:100% 公表:51.8% 把握:88.0%	98.2% 21.7% 65.1%	「話すこと」実施 98.8% やり取り 1,363回 発表 1,500回	97.9% 998回 1,209回
中学校	設定:100% 公表:68.4% 把握:79.7%	100% 37.5% 73.8%	「話すこと」「書くこと」 両方実施 93.2%	90.8%
高等学校	設定:100% 公表:75.7% 把握:75.7%	100% 88.4% 93.0%	「話すこと」「書くこと」 両方実施 54.1%	49.1%

# 令和4年度英語教育実施状況調査結果（速報値）

## ウ 全ての校種において言語活動やコミュニケーションを重視したICTの活用が不足

	1人1台端末を活用した授業	発表や話すことにおけるやり取りをする活動	発話や発音などの録音・録画する活動	キーボード入力等で書く活動	電子メールやSNSを用いたやり取りをする活動
	50%程度以上の授業で活用した割合				
小	44.0%	<u>31.3%</u>	9.6%	12.1%	<u>0.6%</u>
中	48.1%	<u>12.6%</u>	8.9%	20.2%	<u>1.3%</u>
高	—	<u>33.3%</u>	14.8%	18.5%	<u>0.0%</u>

## ○山梨県の主な課題

- ア 英語による言語活動に重点を置いた授業づくりにおいて学校種間の共有が不足
- イ 全ての校種において指導と評価の一体化が不十分
- ウ 全ての校種において言語活動やコミュニケーションを重視したICTの活用が不足



各校種で解決する  
のではなく…

## ○山梨県の取組

- ア 小・中・高の連携を踏まえた「活発な英語による言語活動」に重点を置いた授業づくり
- イ 小・中・高、「10年間を見据えた、CEFRに基づく一貫性のある」評価改善
- ウ 全ての校種で、「個別最適な学びと協働的な学び」を往還し、児童生徒の発信力の向上につながる1人1台端末の活用に向けた先進的な取組

## 学校種間連携（小・中・高連携）

□情報交換（授業参観等） □交流（研究協議等） □カリキュラム作成（CAN-DOリスト等）

□指導・学習内容（言語材料等）でつなく □指導・学習方法（言語活動等）でつなく  
□学習評価（パフォーマンステスト等）でつなく □教材・教具でつなく □人でつなく



## 授業改善・学習改善

□指導：「活発な英語による言語活動」 ※授業は英語で行うことを基本・ALT活用 等  
□評価：「10年間を見据えた、CEFRに基づく一貫性のある評価」 ※テスト改善 等  
□ICT：「個別最適な学びと協働的な学び」 ※1人1台端末・学習者用デジタル教科書 等

各種調査  
アンケート



GTEC

児童・生徒の英語力向上（意欲含む）



# 生徒の英語力向上に関する分析

○生徒の英語力の向上には、相関分析や取組の変化に着目した経年変化分析の結果、「生徒の言語活動の割合」「英語教師の英語力や発話の割合」「ICTの活用（発表や話すことにおけるやり取りをする活動）」等が影響を与えている。

○今回新たに把握した、CEFR B1（英検2級）レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が高い高等学校では、ICTを活用した言語活動やALTによる授業外の活動を行っている学校が高い割合でみられた。

⇒生徒の英語による言語活動を増やすこと、言語活動の取組でICTやALTを効果的に活用すること、教師が英語力を高め授業で積極的に英語を使用することなどが、生徒の英語力の向上に必要。

※今後、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果等と併せて、教育委員会や学校等の取組と生徒の英語力の関係についてさらに分析予定。

## 生徒の英語力と各項目の相関（中学校・高等学校）

	生徒の英語による言語活動が50%以上の学校の割合	「CAN-DOリスト」形式による学習到達を公表している学校の割合	小学校/中学校と連携している学校の割合	生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動を50%以上の授業で実施した学校の割合	CEFR B2レベル相当以上を取得している教師の割合（※1）
中学校	0.45*	0.37*	0.34*	0.37*	0.13*
高等学校	0.33*	0.27	0.18	0.33*	0.20*

\*5%水準で有意（両側）

（※1）のみ学校単位の相関（その他は都道府県単位）

## 【参考】経年で伸びが見られた主な取組（※2）（中学校の例）

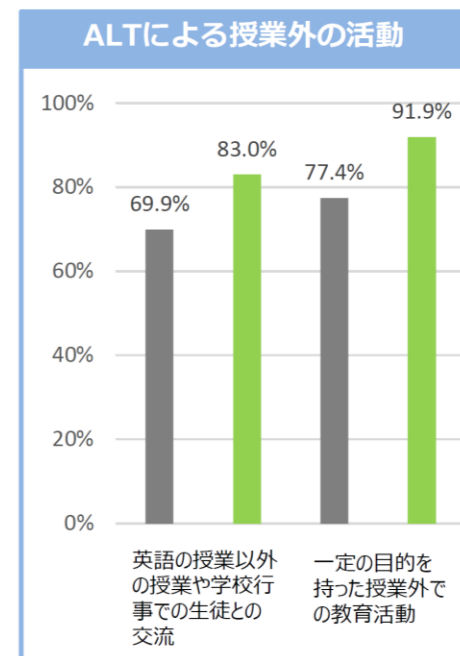
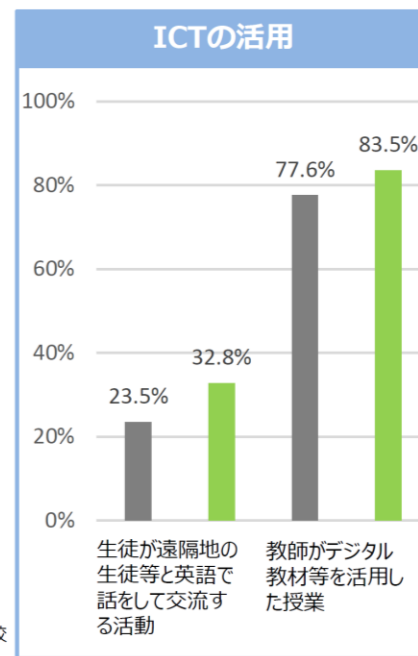
生徒の英語力に影響を与えた可能性が高い取組	差分の差 <sup>※3</sup>
授業において、生徒が英語で言語活動をしている時間の割合（第3学年）	0.073
英語担当教師の英語による発話の割合（第3学年）	0.052
ALTによる授業外の活動（英語の授業以外の授業や学校行事での生徒との交流）	0.045

※2 政令指定都市立の中学校について、R元年度とR4年度における取組の変化に着目し比較。上記の取組が増加している学校で、CEFR A1レベル（英検3級）相当以上の生徒の割合が増加がみられている。

※3 差分の差 = (取組に変化があった学校群の英語力の差分) - (取組に変化がなかった学校群の英語力の差分)

例えば、「0.073」は、取組に変化があった学校群の方が、取組に変化がなかった学校群より、CEFR A1レベル相当以上の生徒の割合の増加量が7.3%高かったことを示す。ただし、着目した取組以外の取組や外部環境の影響を受けている可能性もあることに留意が必要。

## CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が平均より高い学校の傾向（高等学校）



■：学科全体（該当学科の全体平均）

■：CEFR B1レベル相当以上を取得している/有すると思われる生徒の割合が学科別平均より高い学校

## 評価改善ワーキンググループ (W.G)

評価改善ワーキング 25名程度

○有識者アドバイザー 4名

座長 : 田中武夫教授 (山梨大学)

小学校 : 酒井英樹教授 (信州大学)

中学校 : 太田洋教授 (東京家政大学)

高等学校 : 亀谷みゆき教授 (朝日大学)

○研究指定校 6名

英語教育推進リーダー 1名

総合教育センター指導主事 2名

教育事務所・甲府市・甲州市教委指導主事 5名

義務教育課・高校教育課指導主事 3名

※今後の予定

指定校連絡会議 4月27日(木) 県総合教育センター② 14:30~16:45

第1回WG 5月29日(月) 県総合教育センター大情パ 14:30~16:45

第2回WG 9月26日(火) 県総合教育センター③④⑤ 14:30~16:45

第3回WG 1月31日(水) 県総合教育センター③④⑤ 14:30~16:45

成果発表会 2月 9日(金) 県総合教育センター大③④ PM

【分析】  
【指導・助言】  
【研修会】



# 研究指定校の取組

【授業改善・評価改善】

【実践】

【公開：アーカイブ化】

## R5年度各校の研究内容

相川小学校:CAN-DOリスト整理(学校種間接続)

活発な言語活動・ICTを有効的に活用し学びの記録  
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

北東中学校:小・中・高の連携を踏まえた言語活動の検証

異校種の授業参観や意見交流

甲府西高校:グローバルな視点に立ち、現代社会の問題を解決するため考えを深められる授業

ICTを適宜利用しながら、より魅力的で生徒の発信力を高めることのできる授業  
目標に沿った生徒の力をみとることのできる観点別評価

小学校及び中学校との交流(授業観察や協議)による連携強化

塩山北小学校:目的や場面、状況を意識した言語活動を通して語彙や表現を活用

ICTを効果的に活用

「話すこと」における小中高の12年間で体系的指導・異校種参観

塩山中学校:活発な英語による言語活動を仕組み、語彙や表現を習得

ICT端末を活用(学習者用デジタル教科書や各種アプリ等)

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

「話すこと」における小中高の12年間で体系的指導・異校種参観

都留高校:新課程に対応した都留高校版Can-doリストの修正と年間指導計画、単元計画の作成

領域統合型の授業を通じた言語活動を中心に据えた授業づくりの実施

「書くこと」「話すこと」を向上させるための観点別評価の実施

小学校及び中学校との交流および各校種のCan-doリストの共有による連携強化

中学校と高校の連携では「話すこと」「書くこと」中心

小学校と中学校の連携では「話すこと」を中心

上位の学校でどのように補えばよいのか検証



# 山梨県教育委員会

【指導・支援】  
【周知・活用・配信】  
【アライアンス・協働体】

○研究指定校への継続的な指導・支援  
成果物等の周知・活用・配信  
アライアンス・協働体への参加・運営

○事業取組や成果の周知

- ・教育課程説明会（8月上旬）・教育課程研究会（年間4回）
- ・小・中・高連携研修会（8月10日（木）教育センター）
- ・小学校英語専科教員研修会（9月14日（木）教育センター）
- ・中学校英語教諭対象学習会（10月17日（火）教育センター）
- ・高等学校英語科研修会  
（6月8日（木）・9月7日（木）・11月9日（木）教育センター）
- ・県総合教育センター各種研修（視学官・調査官・学力調査官・田中座長 他）
- ・山梨県教育委員会HP
- ・成果発表会（令和6年2月9日）

○研究授業や研修内容のインターネット配信

- ・民間企業による提案授業の撮影  
Yamanashi English Channel (YEC) による配信
- ・県教委によるZoomオンライン配信（年3回ワーキング 他）

# 成果指標（検証）

- ①「英語教育実施状況調査」
- ②「研究指定校アンケート」
- ③「研究指定校振り返りシート」
- ④「パフォーマンス動画 経年比較」
- ⑤外部検定試験（GTEC）」（中・高等学校）
- ⑥「授業動画視聴アンケート（アーカイブ動画・オンライン配信）」
- ⑦「ワーキンググループ有識者による分析検証」



等



## 年間計画(1学期)

※年間計画については、変更の可能性あり。  
提案授業計画は、今後確定をしていく。

4月 指定校連絡会議(27日)

指定校:第1回アンケート実施(~5月上旬) ※5月19日(金)提出×切

5月 指定校・県教委準備(学習会等の実施)

「事業計画書」等の提出 ※5月19日(金)提出×切

第1回ワーキング(29日)

- ・事業概要、全体計画の確認
- ・第1回アンケート分析
- ・大学教授による学習会(指導・助言)

6月・7月 参観授業(異校種参観等)

8月 小・中・高連携研修会(10日) ※講師:太田洋教授



## 年間計画（2学期）

※年間計画については、変更の可能性あり。  
提案授業計画は、今後確定をしていく。

9月 第2回ワーキング（27日）

- ・指導案検討（10月～12月の提案授業に向けて）
- ・参観授業（異校種参観等）振り返り
- 8月の研修会の振り返り

10月 提案授業③ 【〇〇小・中・高】 ※民間撮影

11月 提案授業④ 【〇〇小・中・高】 ※民間撮影

12月 提案授業⑤ 【〇〇小・中・高】 ※民間撮影

## 年間計画(3学期)

※年間計画については、変更の可能性あり。  
提案授業計画は、今後確定をしていく。

- 1月 指定校:第2回アンケート実施(1月中旬) ※1月19日(金)提出メ切  
第3回ワーキング(31日)  
・成果発表会に向けて  
・R5年度の成果物作成、普及について  
・10月～提案授業の振り返り
- 2月 成果発表会(9日)  
県教育委員会と市町村教育委員会委託契約終了(15日)
- 3月 山梨県英語教育改善プラン推進事業  
義務教育課HP・Yamanashi English Channel(YEC)に  
成果物をアップ

# Today's Menu

## 事務局より

○令和5年度英語教育改善プラン推進事業について

○第1回研究指定校アンケート結果について

大学教授による講義（指導助言）

※終了後、校種ごと分科会

# 第1回 英語教育改善プラン推進事業 研究指定校アンケート

小学校(教員用・児童用) 中学校(教員用・生徒用) 高等学校(教員用・生徒用)

## ○目的

本事業を通して、英語担当教師が授業改善(指導改善・評価改善)を行うとともに、児童生徒が学習改善をしながら、英語力(意欲含む)を向上させていく変容を見取る。また、本事業の成果と課題を明確化するツールとする。

## ○対象

教員:外国語(英語)担当教師全員(外国語活動・外国語科担当教師)  
児童生徒:外国語(英語)を学習している児童・生徒全員が基本

## ○時期

第1回:5月上旬  
第2回:1月中旬

※提出期限:令和5年5月23日(火)  
※提出期限:令和6年1月19日(金)

## ○方法

・Google フォーム or Microsoft Forms  
・Excel

## ○その他

・調査項目は変えずに実施し、提出してください。  
・校内研等使う場合は、調査項目を加えても構いません。

## Today's Menu

事務局より

○令和5年度英語教育改善プラン推進事業について

○第1回研究指定校アンケート結果について

### 大学教授による講義（指導助言）

※終了後、校種ごと分科会

# 大学教授による講義（指導助言）

## 学校種間連携（小・中・高連携）

□指導：「活発な英語による言語活動」

※授業は英語で行うことを基本・ALT活用 等

□評価：「10年間を見据えた、CEFRに基づく一貫性のある評価」

※テスト改善 等

□ICT：「個別最適な学びと協働的な学び」

※1人1台端末・学習者用デジタル教科書 等

①亀谷みゆき教授（朝日大学）

②太田洋教授（東京家政大学）

③田中武夫教授（山梨大学）

## 児童生徒の英語力向上（意欲含む）



9月26日(火) 第2回WG会議までにやっていただきたいこと

①提案授業指導案作成

※指導案の型は、後日メール送付します。

②1学期末パフォーマンステスト撮影・記録

※パフォーマンス課題、評価基準表(ルーブリック)、動画等  
を残しておいてください。

③提案授業日程決定 ※民間企業撮影

GTEC受験日程決定

④その他

異校種参観・学習会の実施等



Thank you for your attention.